

狭心症などの診断に有用な冠動脈造影 CT 検査(日帰り)を 行っています。 (龍野中央病院)

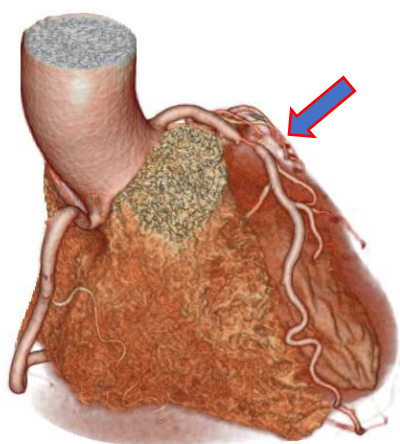
当院では令和4年12月末に Canon 社製の最新の 80 列 CT 装置を導入し、令和5年1月より冠動脈造影 CT 検査を始めました。これまで、狭心症や心筋梗塞といったいわゆる「虚血性心疾患」の最終診断には、当院では心臓カテーテル検査を入院のうえに行っていました。この検査は入院での検査で、手や足の動脈からカテーテルといわれる細い管を血管内に挿入し、心臓の血管(冠状動脈)に造影剤を注入することで、血管の狭窄の有無や程度、部位を調べる検査です。

近年、画像診断技術の進歩により、こうした心臓カテーテル検査と同様の情報を CT スキャンにて得ることができるようになりました。それが今回当院にて採用した 80 列マルチスライス CT での冠動脈造影 CT 検査です。冠動脈造影 CT 撮影には心臓カテーテル検査と同様に造影剤を要しますが、造影剤注入は右ひじの静脈からのプラスチック点滴針で行います。いわゆる「普通の CT 検査」と同様に外来で短時間で検査し、当日すぐにご帰宅いただけます。

歩行や階段昇降の際に胸の圧迫感、胸痛を感じる患者様、また高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙などの患者様で心臓の病気が気になる患者様は内科外来担当医にご相談ください。検査費用は保険 3 割負担で約 10,000 円です。



CT 装置



心臓の血管が動脈硬化で狭くなっている